

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型事業所 ぶれも・白井 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年12月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	64	(回答者数) 55
○従業者評価実施期間	2024年 12月 1日		2024年12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1 月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの特性に合わせた療育の提供ができること。	多職種によるこどもの実態把握・カンファレンスを重ね、一人ひとりに何が必要かを検討し実施している。	保護者の方や関係機関との連携を深め、こどもの成長を多角的な視点で把握しながら療育を提供していく。
2	職員研修が充実していること。	週1回職員研修の時間を設け、それぞれの分野の専門職が他職種に向けて研修を行っている。	定期的に職員と面談を行う等、各々の職員の希望を確認しながら、保護者やこども、職員のニーズにあった研修や、支援の質が向上する研修を実施していく。
3	こどもが安心感をもって通所し、療育を楽しみにしていること。	運動療育や遊びを通じた療育について、こどもたちが支援者に対して信頼感と安心感をもってプログラムを進めている。	こどもが楽しい、もっと来たいと思えるように環境の設定やプログラム等の支援内容を充実させていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所の併用をしている利用者に対する支援の共有が少ないこと。	相談支援事業所を通じた会議等への参加は行っているが、それ以外での支援の共有が定期的に行えていないこと。当事業所からの発信の機会がないこと。	保護者に許可を取ったうえで併用事業所との見学・会議の機会を設けていく。またそこで決まった支援内容を内部のスタッフ間でも共有し当事業所の療育にも取り入れていく。
2	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていることが保護者・利用者に周知されていないこと。	訓練の実施について見える化が不十分なこと。	訓練でのこどもたちの様子や課題や対応策などの気づきをその都度保護者に見える化し、共有していく。家庭においても実践できるよう、一緒に訓練に参加をしていただき非常災害の対応について考える機会を作っていく。
3	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催に等により、保護者同志の交流の機会が設けられていることが周知されていないこと。	保護者会等の活動の実施について見える化が不十分なこと。	保護者会や保護者勉強会などの内容に見える化し、お便りとSNSで開催の周知をするだけでなく、療育時の案内も徹底し利用者に周知できるようにしていく。